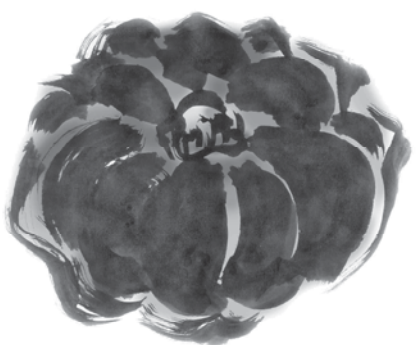




季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〈第一号〉

冬至とうじ
十二月二十二日



年賀状の初春

今年もあとわずか。冬至の声を聞いて、あわてて年賀状を書き始めた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

書き出しは「新年」のほかに「初春」「新春」と春をよく使いますが、実際には暦の春となる立春でさえまだ先。ある調査によると、旧暦との元日のずれは最長で二十日の一月二十一日、最長で五十二日の二月二十二日、一番多いのが二月五日とか。旧暦の昔は立春あたりで元日がめぐってくるため、新年のあいさつは自然と「初春」となり、その習慣を現在も年賀のあいさつに受け継いでいるわけです。

ちなみに、年賀はがきは明治七年に発売開始。当時は一月二日の書初めの日に書き、松の内の七日までに出すスタイルで、年末までに投函するようになったのは明治後半のこと。年賀はがきが庶民に定着したのは、終戦後の昭和二十四年、お年玉付が発案されてからです。

内宮前の人々の郵便を一手に引き受けているのが、おはらい町通りにある五十鈴川郵便局。明治八年に宇治郵便取扱所として開局されました。祭主職舎に皇族方、特に天皇陛下が宿泊された際には臨時の電報局が設置され、通信手段を確保したといえます。当初は神宮道場の近くにあり、明治のころに今の場所に移動、旅館の一階を改装しました。当時の写真を見ると、平入りで外圍いのある木造家屋。壁には母子が描かれた年賀はがきの売り出しポスターが貼られ、年末の雰囲気があります。

旧暦の正月は来年二月十八日とまだ先ですが、今年の年賀状も「初春」で始めるあいさつとしまじょうか。

文 千種清美

